

伝統野菜にみる地域名と地図

食生活ジャーナリスト／NPO＜野菜と文化のフォーラム＞理事
草間 壽子

筆者は、NPO＜野菜と文化のフォーラム＞が主催する「野菜の学校」において、「日本の伝統野菜・地方野菜」という講座の運営に携わって5年目に入る。その間に多くの地方の伝統野菜・地方野菜を愛する方々からお話をうかがい、その野菜を見て食べてきた。

この小文のタイトルは「伝統野菜にみる地域名と地図」であるが、地域名も地図も、「伝統野菜」とは何か、という問いに深く関係しているように思う。そこで、まず、伝統野菜について考え、その上で地域名と地図について述べることにしたい。

❖ 伝統野菜とは何か

■ 「伝統野菜」の歴史

伝統野菜はここへ来てにわかに注目されているが、「伝統野菜」という言葉はいつ頃から使われるようになったのだろうか。

「伝統野菜」と呼ばれている野菜は、大まかにいうと各地で古くから作られている地方野菜である。筆者が参加するNPOの顧問、芦澤正和氏（元野菜試験場・育種研究室室長）は、1970年代に全国の地方品種の調査を行い、その成果は『地方野菜大全』（農文協）などに著されているが、調査当時、行政機関の一部の人から「骨董趣味」と軽侮されたという。しかし一方で、その頃から遺伝資源としての在来品種の重要性が認められ、各地で収集保存が始まっていた。たとえば京都では、1960年に農業試験場等で京野菜の品種保存を検討し、21品目、105種を選定、1974年から京都府が「伝統野菜原種ほ設置事業」を開始、1976年には高嶋四郎京都府立大学農学部教授を座長に、「京の伝統野菜」振興方針検討会が発足している。

「伝統野菜」という言葉は、このあたりから使われ始めたのではないだろうか。この仮説が正しいとすると、50年ほど前ということになる。

■ 「伝統野菜」振興の流れ

伝統野菜のほとんどは、わずかな生産者によって細々と作られている。旬の一時期しか収穫できない上、形、サイズ、味などのバラツキが大きく、市場流通には向いていない。にもかかわらず、これを付加価値の高いブランド産品に育て、マーケットを開拓して地域振興につなげようという動きがあちこちで始まっている。もちろんこの背景に、和食のユネスコ無形文化遺産登録があることはいうまでもない。

地方野菜・地方品種をその地の「伝統野菜」としてブランド化しようとする動きは、「伝統野菜」の元祖、京野菜から始まったとあっていいだろう。その後、この試みは各地に広がっていく。表1は、現在までの、地方野菜・地方品種に関連する主な動きをまとめたものである。

地方野菜は、土地の気候風土、歴史、文化、気質など、さまざまな要素が絡み合った環境のなかに存在する。これを保存、育成する動きの背景には各地固有の事情があり、中心となっている組織は多様である。独断と偏見でごく大まかに分けてみると、4つ考えられる。

1. 県や市、JA、その職員OBやOGなどが主体となってリードしているケース
2. 青果物卸売業など市場関係者が主導して動かししているケース
3. 研究者と大学が核となって人が集まり活動が広がるケース
4. 市民が中心になってさまざまな組織や人をネットワークしていくケース。

表1 地方野菜・地方品種に関連する主な動き

年	地域	事柄
1975	京都	京都府大高嶋四郎氏、京野菜種子保存開始
	京都	「京の伝統野菜振興方針検討会」発足
1986	大阪	大阪府の野菜遺伝子資源調査および種子の保管・増殖
1989	京都	ブランド産品の認証とその生産・流通の拡大
1991	石川	「加賀野菜懇話会」設立
1996	石川	「金沢農産物ブランド協会」発足
1997	東京	「伝統野菜ゆかりの地」神社境内に説明板設置
1998	新潟	「長岡野菜ブランド協会」立ち上げ
1999	福井	ふくい伝統野菜「るぶ」設立
2002	岐阜	「飛騨・美濃伝統野菜」認証表示制度発足
2003	山形	「山形在来作物研究会」発足
	兵庫	「ひょうごの在来種保存会」発足
2004	福島	「会津の伝統野菜を守る会」発足
	沖縄	伝統的農産物振興戦略策定調査事業
2005	東京	「江戸東京・伝統野菜研究会」結成
	福岡	「博多の野菜を育てる会」発足
	奈良	「大和野菜」指定開始
	大阪	「なにわ伝統野菜認証制度」開始
2006	熊本	「ひご野菜」15品目指定
	長野	「信州伝統野菜」認定事業開始
2007	石川	「能登野菜振興協議会」発足
	岡山	「吉備やさい発掘・再生研究会」発足
2008	長崎	「西山木場伝統野菜育成保存会」発足
	鹿児島	「かごしまの伝統野菜」選定開始
2009	東京	「江戸東京野菜普及推進連絡協議会」(築地市場)総会
	東京	講座「日本の伝統野菜・地方野菜」開始
2010	東京	「江戸東京野菜推進委員会」(中央会)設立
	新潟	「長岡野菜加工研究会」発足
2011	福岡	「博多ふるさと野菜を語る会」発足
	福井	「伝統の福井野菜振興協議会」発足
2012	東京	江戸東京野菜コンシェルジュ養成講座開始
2013	静岡	「静岡在来作物研究会」発足
	宮城	「みやぎ在来作物研究会」発足
	秋田	「あきた郷土作物研究会」発足

表は、江頭宏昌山形大学農学部准教授の資料をもとに、筆者が関わっているNPO法人＜野菜と文化のフォーラム＞主催「野菜の学校」講座日本の伝統野菜・地方野菜」講義資料などからまとめた。

この4つが重なり合い、連携しながら進んでいるようだ。当然のことながら、野菜をみる視点もそれぞれ独自である。農業振興、マーケティング、生物資源の保存、地域振興・活性などなど、主軸となるものがあり、他の要素と交錯している。当然、「伝統野菜」の定義も異なる。次に、「伝統野菜」の定義についてみてみよう。

■さまざまな「伝統野菜」の定義

京の伝統野菜

「伝統野菜」といえば、まず京都。それは次のように定義されている。

1. 京都に都が置かれていた明治維新以前から生産されていた歴史を有する野菜の品目。
 2. 京都市域のみならず、京都府内全域で生産されている野菜の品目。
 3. タケノコを含む。
 4. キノコ類、シタ類（ゼンマイ、ワラビ等）を除く。
 5. 種の保存の為にのみ栽培されている野菜の品目。
- 又は、栽培されていないものの種が保存されている野菜の品目。及び絶滅した野菜の品目を含む。

その他の地域ではどうか。「伝統野菜」の定義の多様性を示すものとして、栽培と利用の歴史・伝統に関する記述を拾ってみた。

表2 各地の「伝統野菜」定義における歴史・伝統に関する言及

地域	名称	歴史・伝統に関する言及
宮城	仙台伝統野菜	古くから
秋田	秋田県の伝統野菜	昭和30年代以前から
	あきた郷土作物	長年栽培され
山形	村山／最上／置賜／庄内	おおむね昭和20年（戦前）から
福島	会津伝統野菜	古くから
群馬	ぐんまの伝承作物	古くから
東京	江戸東京野菜	江戸時代から／明治から昭和30年代
新潟	長岡野菜	古くから
石川	加賀野菜	1945年以前から
	能登伝統野菜	おおむね30年以上の歴史
福井	伝統の福井野菜	100年以上前から
長野	信州の伝統野菜	昭和30年代以前から
岐阜	飛騨・美濃伝統野菜	古く（昭和20年以前）から
愛知	あいちの伝統野菜	今から50年前には栽培
滋賀	近江の伝統野菜	おおむね明治以前の導入
奈良	大和の伝統野菜	戦前から
京都	京の伝統野菜	明治維新以前から
大阪	なにわの伝統野菜	おおむね100年前から
広島	広島伝統野菜	昭和の中期以前から
長崎	ながさきの伝統野菜	江戸時代など古くから
熊本	ひご野菜	古くから
宮崎	宮崎伝統野菜	戦前より
鹿児島	かごしまの伝統野菜	古くから
沖縄	沖縄の伝統的農産物	戦前から

古くは「江戸時代から…」を基準とする「江戸東京野菜」と「ながさき」。新しいところでは「おおむね30年以上前」としている「能登」。その間に、「明治」、「100年前」、「終戦」、「昭和半ば・30年代」と4つの時代や

時期が言及されている。また、「100年以上前から…」や「50年前には…」、「30年以上の歴史」という定義もあり、その場合の基点は進行中の「今」であるから、定義も動いていく。このほか「古くから」とのみ書かれていて、時代が明示されていないケースも多い。

なぜこのようなことになるのか。関係機関が「伝統野菜」の統一基準を決めてはどうか、という意見もある。だが、私は、地方によって定義が異なることがこの場合の「伝統野菜」の本質かもしれないと思う。「伝統野菜」が、「京の伝統野菜」の成功から現在へと続くマーケティング上のキーワードであり、産物に価値を付与し、ブランド化のタネとなる地域の資源であるとするならば、その定義にそれぞれの地域の事情がそのまま表現されるのは当然なのであろう。

山形在来作物研究会

山形には、農学博士青葉高氏から現在へとつながる、野菜を「生きた文化財」としてとらえる流れがある。

2003年、山形大学農学部教職員有志を中心に、「山形在来作物研究会（以下、在作研）」（会長同大学同学部准教授江頭宏昌氏）が発足した。ここでは、そもそも「伝統野菜」という言葉は使わず、「在来作物」と呼ぶ。では「在来作物」とは何か。

1. ある地域で世代を超えて栽培されている。
2. 栽培者自らの手で種採りや繁殖が行われている。
3. 特定の料理や用途（たとえば、祭礼や儀礼など）に用いられる。

マーケティング的な匂いはしない。にもかかわらず、鶴岡市にあるイタリアンレストラン「アルケッチャーノ」のシェフ、奥田政行氏との連携で庄内の野菜がクローズアップされ、食関連の事業が振興していくプロセスは、「伝統野菜」に関心のある人ならだれもが知っているハッピーなサクセスストーリーである。

山形県には、在作研のほかに県が主導する、「伝統野菜」をキーにしたブランド野菜振興の動きがある。それとの相乗効果もあるだろう。だが、必ずしもマーケティング的な文脈で語られることのみがサクセスにつながるのではない、ということは注目される。

講座「日本の伝統野菜・地方野菜」

筆者らは、NPO＜野菜と文化のフォーラム＞のメンバーとして「日本の伝統野菜・地方野菜」をテーマに講座を開いている。このタイトルにある「伝統野菜・地方野菜」とは何を指すか。

「在来作物」と定義される野菜を中心に据えているが、新たなマーケット獲得を模索する生産者・流通・自治体が描いているイメージも含まれ、あえて定義すれば、「古くからその地で作られてきた固定種の野菜」という程度の緩やかなもの。できるだけ大きくとらえて、「伝統野菜・地方野菜」をとりまく環境の変化と、それに呼応していく生産者と野菜の姿もみていきたい。地域ブランド形成の資源という役割に野菜はどう対応するのか。よりよく存続させるためにはどうしたらいいか。生産、流通、消費者がそれぞれの立場で考える必要がある。

日本の伝統野菜・地方野菜

南北に長い日本列島のそれぞれの地域で、野菜はその地の固有の条件に適応し、需要を満たしてきた。古くから栽培されてきた品目ほど地域によるバラエティに富んでいる。

以下、地域名がついていると思われる伝統野菜・地方野菜をランダムに拾った。
*都道府県名の後の()内は伝統野菜ブランド名

●北海道 札幌大球キャベツ、札幌黄、函館赤カブ

●青森 筒井紅カブ、大鱈温泉モヤシ、糠塚キュウリ、一町田せり ●岩手 暮坪カブ、安家地大根、二子里芋 ●宮城 仙台伝統白菜、小瀬菜大根、余目曲がりネギ、上伊場野芋 ●秋田 松館しぼり大根、平良カブ、秋田フキ・サシビロ、阿仁フキ、関口ナス ●山形(村山) 牛房野カブ、悪戸芋、山形赤根ホウレン草・青菜、金谷ゴボウ ●山形(最上) 最上カブ、石名坂カブ、角川カブ、長尾カブ、肘折カブ、西又カブ、漆野インゲン、畑ナス ●山形(置賜) 小野川モヤシ、花作大根、高豆蔻ウリ、夏苺フキ、窪田ナス、遠山カブ ●山形(庄内) 温海カブ、平田赤ネギ、民田ナス、藤沢カブ、宝谷カブ、外内島キュウリ、鶴渡川原キュウリ、小真木大根 ●福島(会津) 荒久田莖立、会津地葱・丸茄子・小菊南瓜・赤筋大根、慶徳玉葱、立川牛蒡、館岩カブ

●茨城 浮島蓮根 ●栃木 新里ネギ、中山カボチャ ●群馬 国府白菜、石倉根深ネギ、尾島ネギ、下植木ネギ、下仁田ネギ、沼須ネギ、国分人参 ●埼玉 岩槻ネギ、中津川芋、埼玉青ナス ●千葉 大浦ゴボウ、矢切ネギ、小糸在来 ●東京(江戸東京) 馬込半白胡瓜、寺島茄子、東京独活、滝野川牛蒡、品川カブ、亀戸大根、練馬大根、大蔵大根、谷中生姜、千住葱、小松菜、内藤唐辛子 ●神奈川 相模半白節成、万福寺人参、三浦大根

●新潟 寄居カブ、久保ナス、長岡巾着、中島巾着、魚沼巾着、黒埼茶豆 ●富山 高岡ドッコ、五箇山カブ、平野大根 ●石川(加賀) 加賀太、打木赤皮甘栗カボチャ、金沢一本太ネギ ●石川(能登) 中島菜、沢野ゴボウ ●福井 河内赤カブラ、穴馬カブラ、嵐カブラ、板垣大根、谷田部ネギ、勝山水菜、黒河マナ、吉川ナス ●山梨 大塚人参、鳴沢菜、茂倉ウリ、落合芋 ●長野(信州) 野沢菜、羽広菜、千代ネギ、松本一本ネギ、小布施丸ナス、親田辛味大根、玉瀧カブ、開田カブ ●岐阜(飛騨・美濃) 徳田ネギ、西方芋、飛騨一本太ネギ、種蔵紅カブ、半原カボチャ、久野川カブラ ●静岡 折戸ナス ●愛知 宮重大根、方領大根、守口大根、愛知縮緬カボチャ、越津ネギ

●三重 三重ナバナ ●滋賀(近江) 鮎河菜、日野菜、北之庄菜、万カブ、余呉の山カブラ、伊吹大根 ●京都(京) 聖護院大根・カブ、壬生菜、賀茂茄子、京山科茄子、伏見唐辛子、鹿ヶ谷南瓜、桂瓜、九条葱、京菊 ●大阪(なにわ) 毛馬胡瓜、玉造黒門越瓜、勝間南瓜、天王寺カブ、大阪シロナ、田辺大根、吹田慈姑 ●兵庫 富松一寸空豆、丹波やまの芋、姫路蓮根、網干メロン、御津の青ウリ ●奈良(大和) 大和マナ・丸ナス、下北春マナ、筒井蓮根

- 鳥取 伯州ネギ ●島根 黒田セリ、津田カブ、出西しょうが ●岡山(吉備) 土居分小菜、宇土川ゴボウ、日指ゴボウ、足守ゴボウ、神原ゴボウ ●広島 深川芋、広島菜 ●山口 萩たまげナス、山口甲高玉葱
- 徳島 美馬太キュウリ ●香川 香川本鷹、三豊ナス ●愛媛 松山長ナス、清水一寸ソラ豆、伊予緋カブ ●高知 入河内大根、弘岡カブ
- 福岡 芥屋カブ、三池高菜、博多かつお菜、三毛門カボチャ ●佐賀 桐岡ナス、女山大根 ●長崎 長崎赤カブ・紅大根・白菜、雲仙こぶ高菜、木引カブ ●熊本(ひご) 熊本赤ナス・長人参、水前寺菜・モヤシ、春日ほうぶら ●宮崎 佐土原ナス ●鹿児島 安納芋、有良大根、伊敷長ナス、開聞岳大根、桜島大根、トカラ田芋 ●沖縄 島ラッキョウ、島カボチャ、島大根、島人参

(作図: 谷崎スタジオ)